

## 「つながり」を広める

## —年頭のご挨拶—

2020年から始まった新型コロナウイルスは猛威を奮い続け、未だ終息が見えません。

その結果、今まで築き上げてきた価値観が大きくゆらぎ、社会、経済、教育活動は、転換を余儀なくされました。本校においても新しい授業、交流、学びの形を考え続ける2年間となりました。1年以上入国できない状態が続いている学生たちもいます。入国していても、外出制限により、思うように行動できない状態が続いた学生もいました。我慢し続けてくれた学生たち、そしてそんな彼らを鼓舞し続け、新たな教育の在り方を模索し続けてくださった教職員、関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

「幸福学」という学問があり、「人間が幸せを持続するには、金やモノ、地位を手に入れるのではなく、多くの人と交わることができること」という考え方があります。この「交わり」とは、「ゆるやか」で「いろいろな価値観を持つ人たちがいる」つながりだと理解します。今、私は、これを実現できる最先端にいるのが日本語学校だと考えています。

本校は、この「つながり」をずっと大切にしてきました。今後、私たちがすべきことは、それを社会へも広めていくことです。「幸せの4因子」（「自己実現と成長」、「つながりと感謝」、「前向きと楽観」、「独立とマイペース」）を満たしていけば、幸せな街、企業、社会を創ることができるそうです。

これからは、校内の学生、教職員の「幸せ」だけでなく、「JETと地域」「JETと業界」「JETと社会」のつながりの中で「幸せの因子」が自然と高まっていく仕組みを考えていかなければなりません。

ここに具体的な目標をあげます。

- ① 校内においてクラス単位、学校単位で「つながり」の強化を図ります。
- ② 卒業生や各国の関係機関との「つながり」を、より深めます。
- ③ 学生、教職員が地域で活躍できる場を模索し、実現していきます。
- ④ 地域活動の情報を積極的に公開し、日本語業界を正しく理解してもらえるよう社会に発信していきます。そして業界の中で本校の存在価値を高めます。

最後になりますが、全ての皆様にとって恵み多き年になりますことを祈念して、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

校長 山口 閑子

## 留学生の職場体験、始まる

## 地元北区の3社にて

12月15日午後、地元北区3社の職場体験に5名の学生が参加しました。これはJETで每期行っている就職支援セミナーの「企業経営者との意見交換会」がきっかけとなり、東京商工会議所北支部(会長は当校の越野理事長)のご協力を得て初めて実現したものです。

参加させていただいた企業と学生は下記の通りです。

## ○玉越工業さん

呉政勲さん(台湾)、林陳佑さん(台湾)

## ○本橋米店さん

王東立さん(台湾)、

Muhammad Ar Razi Akhsan さん(インドネシア)

## ○五十嵐商会さん(包装資材卸販売)

Sally Monica Felicia さん(インドネシア)

玉越工業が営む自転車店タマチャリでは、清宮店長らご指導の下、パンク修理やタイヤ組み立てをおこない、本橋米店ではお米の配達、計量や袋詰めのお手伝いをし、五十嵐商会では伝票整理や電話対応をやってみました。「緊張したが楽しかった」、「日本語がもっと上手にならなくちゃ」という感想に加え、大学で会計学を学ぶ予定のSallyさんは、「支払日が一番楽しい」ということばに感銘を受けたそうです。

社長さんたちからは、「流暢な日本語で、意思疎通に困ることはなかった」、「日本の中高生の職場体験も受け入れているが、JETの学生はそれ以上にあいさつができていた」、「学ぶ意欲と吸収力が強い」と、お褒めのことばをいただきました。

12月21日、一堂に会した反省会では、留学生のしっかりした強い意志が会社にとっても刺激になった、互いにとっていい経験になるので今後もやりましょうとおっしゃってくださいました。

この度の受け入れとご指導にあらためて感謝申し上げます。(得猪)



「タマチャリにて」  
店長の「指示を真剣に聞く二人。」



「五十嵐商会にて」  
左手に受話器、右手にメモが鉄則。



「本橋米店にて」  
「お米って面白い!」

## 初めての湯河原で得た経験

11月12日から14日の3日間、第35回新やっさ国際交流(ゆがわら国際交流協会主催)に、林陳佑さん(台湾)と王東立さん(台湾)が参加しました。

学生たちは歴史探訪、甲冑体験、やっさ踊りなどの文化体験をしました。最終日には、ジェンダーをテーマにした国際フォーラムに参加し、8か国10名で母国の現況や問題の解決策などについて話し合いました。

学生たちはホームステイではなく、旅館に泊まりましたが、ファミリーバディーという日本人のご家族がお世話をしてくださいました。最終日の閉講式では、3日間の思い出がよみがえり、涙ぐむ一幕も。

湯河原へ送りだしたときは不安げな顔をしていましたが、この3日間で少し逞しい顔つきになったと感じました。(山下)



←左から林陳佑さん、王東立さん、ファミリーバディーの平島さん、小倉さん姉妹。

★国際フォーラムの様子はこちらからご覧ください！

<https://youtu.be/g5BWx6U94dc>

<参加学生のコメント>

湯河原は初めて行った場所ですが、居心地の良い町でした。和やかな雰囲気にもまれた町や生き生きしている人たちを見て、癒されました。

私のファミリーバディーは80代のご年配の方でしたが、元気で和やかな人でした。2日間のお付き合いでしたが、まるで自分の孫のように、世話をしてくださいました。

湯河原の皆さんや、イベントに参加した他の留学生たちと一緒にやっさ踊りを踊ったり、みかん狩りをしたりして、本当にいい思い出になりました。

今回の交流活動を通して、日本語力がまだ不足していると感じ、もっと日本語を学びたい、もっと日本のことを知りたいという気持ちが以前より強くなりました。(林陳佑)

☆☆☆

日本に来て以来、コロナの影響で、なかなか他の日本語学校の学生と交流ができていないことが残念でした。そのため今回、湯河原で交流会が開かれると聞いて、すぐに申し込みました。

交流会はとても素晴らしかったです。その温泉は日本で有名ですから、夜はもちろん朝も入りました。朝の男湯は普通の温泉ではなく、中にみかんが入っていました。

不動滝という有名な観光地や海岸も綺麗でした。暖かくなると、海でサーフィンもできるらしいです。

また、他の学校の学生と一緒に同じ部屋に寝たり、夜中にいろいろなことを話したりするなど、今までできなかったことが経験できました。

そして、一番印象に残っているのは、湯河原の人たちの温かさです。皆優しく、本当に家族のように、接してくれました。

湯河原のことを絶対に忘れません。皆さんも、是非行ってみてください。(王東立)

## 就職体験記 ～先輩からのエール～

日本菓子専門学校製菓技術科で学び、4月から熊谷の洋菓子店サンドリヨン(<https://cendrillon.co.jp/>)に就職が内定した邱依雪さん(台湾・2020年卒)からJETの学生に、エールが届きました。

留学生の私が掴んだ、パティシエへの道

邱 依雪

JETを卒業する前に、色々な製菓専門学校のオープンキャンパスに参加し、授業の教え方や将来の方向性などを考えて、最後にこの学校を選びました。



この学校では1年次に、洋菓子・和菓子・製パンすべての基礎を学び、それぞれの世界に触れてから、2年次の専門を選びます。私は洋菓子を選びました。

2年生になると、授業の半分以上が実習で、他にもフランス語やイタリア語等を勉強します。さらに、オーナーシェフが自分の店の実際のレシピを紹介してくれる授業もあります。

どうしても学校で学んだことを生かして日本で働き、経験を積んでいきたいという思いと、留学生は就職先を探すのが相当大変だろうという自覚があり、卒業の半年ぐらい前から、周りの日本人学生より一足先に就職活動を始めました。

就職活動は、学校やインターネットにある求人情報から気になる企業を見つけて学校に相談し、会社の説明会に参加、そして面接を受けるという流れでした。しかし、コロナ禍で急に求人がなくなるということも多く、なかなか仕事が探せませんでした。求人があっても内定はすぐには出ません。会社の面接を10回以上受けましたが、それでもだめでした。

実は、日本でパティシエとして働く上で必要となる「就労ビザ」へ変更することは、非常に難しいのです。オーナーシェフでそういう面の知識がある人は多くなく、不採用の結果が多かったのは、その理由もあると思いました。

それでも諦めなくなかったので、色々な会社の説明会に参加し、やっと今の就職先のオーナーシェフと出会いました。

最初は研修生としてお店で短期研修をしました。研修期間後、私は仕事に対する姿勢や一生懸命さが認められて、ビザの申請をしていただくチャンスを掴みました。

外国人がパティシエとして就職するには、「就労ビザ」ではなく、2019年より日本政府により新設された「特定技能1号」という在留資格を入国管理局に申請しなければなりません。まだ新しいビザ資格なので、学校の先生に相談し、学校から行政書士の方を紹介していただきました。そして、ビザについての知識を得て、必要な書類を揃え、申請を行いました。

外国人が日本で就職するのは決して簡単なことではありませんが、できないことはありません。日本で就職したい意志がある人は、どんなチャンスもしっかりと掴み、学校で学べない知識も積極的に調べたほうがいいと思います。

また、日本語の能力はなによりも必要ですから、今JETで勉強している学生たちは、授業などの時間を無駄にしないように勉強してください。

## 新たな留学生政策の要に日本語学校を

留学生 30 万人計画の数値目標が 2019 年に達成された後、コロナ禍により留学生数は減少の一途をたどっている。

日本学生支援機構(JASSO)によると、2020 年 5 月 1 日現在の留学生数は、対前年比約 1 割減の 279,597 人であった。中でも減少幅が大きかったのは日本語学校の留学生で、83,811 人から 60,814 人へと 27%減っている。

30 万人計画後、そしてポストコロナの我が国の留学生政策はどうあるべきなのだろうか。

2021 年 3 月に関係省庁が 30 万人計画の検証をおこなっている。報告書によると、2011 年から 2019 年の間に日本語学校の留学生数が約 3.3 倍に伸び、その卒業生の約 8 割が国内の大学等に進学していることや、国内で就職した留学生が約 9 千人(2008 年)から約 2.3 万人(2019 年)に約 2.6 倍増加していることなどを挙げ、一定の成果があったと評価している。

そして今後の施策の方向性として、オンライン教育の利点も活かしつつ「実留学」を引き続き推進していくことが重要だとしながら、「留学生交流の入り口部分である受入数を重視するこれまでの視点から、より出口(アウトカム)に着目して受入れの質の向上を図る視点に転換」すべきと述べている。

「量よりも質」という考え方には賛成だ。30 万人という数値目標が強調された結果、多くの「出稼ぎ留学生」や不法滞在者を招いてしまったからだ。

しかし、ここで、受入れの質の向上のために日本語教育がいかに重要かが語られていないのは残念である。

30 万人計画の骨子を取りまとめた中央教育審議会では、優れた留学生の獲得が、外交戦略の上で日本の安全保障につながるのと位置付けられていた。

「我が国で学んだ帰国留学生が、人的ネットワークを形成し、我が国とそれぞれの母国との間の友好関係の強化・発展の架け橋となり、ひいてはそれが我が国の安全保障につながることを考えると、留学生政策は重要な国家戦略を形成すると言っても過言ではない。」

日本が世界の平和と安定、発展に貢献しようとするのであれば、新たな留学生政策は、この理念を継承すべきであろう。

留学生が「友好関係の強化・発展の架け橋」となるまでには、日本に対する深い理解が必要だ。そこには日本語教育、それも質の高い日本語教育が自ずと必須のものとなってくる。

これまでの実績を鑑み、留学生教育においては日本語学校が重要な役割を果たすものとして、今後も大いに期待されてよいであろう。国は、日本語学校を管理するだけでなく、「教育機関」として法的に位置付け、育ててゆくべきである。

専務理事 井上 靖夫

## 今年度二回目の大学院研究計画発表会

12 月 13 日に、「第 2 回 研究計画発表会」を実施しました。

この発表会は、進学科の大学院志望者が、自身の研究計画書の内容について JET の先生方の前で発表するもので、毎年 2 回、校内で実施している進学科の恒例行事です。今回の発表者は、対面 2 名、オンライン 5 名、計 7 名の学生達。そのうち 3 名は初めて発表会に参加する新入生でした。

普段の授業とは全く違う緊張感の中、教室に集まった 10 名の先生方の前で一人ずつ発表していきました。その後は質疑応答ですが、前回よりも受け答えがしっかりしていたと感じます。先生方からの厳しいお言葉にも、「貴重なご意見ありがとうございます」と言ってメモを取る姿が印象的でした。

発表会は終了しましたが、これがゴールではありません。今後も研究テーマに真剣に向き合い続けていってほしい。

(草塩)

## 学 校 日 誌

- 11 月 1 日 就職ガイダンス
- 11 月 9 日、15 日、22 日 就職セミナー
- 11 月 12 日～14 日 第 35 回新やっさ国際交流 (2 面)
- 11 月 14 日 第 2 回 日本留学試験(EJU)
- 11 月 15 日 2022 年度進学クラス対象 英語・数学テスト
- 11 月 20 日 WIC オンラインイベント (4 面)
- 11 月 27 日 NEIGHBOR イベント (4 面)
- 11 月 30 日 板橋区立桜川小との交流 (4 面)
- 12 月 5 日 第 2 回 日本語能力試験(JLPT)
- 12 月 10 日 文楽鑑賞教室 (4 面)
- 12 月 13 日 第 2 回 研究計画発表会 (3 面)
- 12 月 14 日 漢字クラス 進級試験
  - 漢字 2 級クラスの鄭宇傑さん(台湾)、3 級クラスの梁永燦さん(香港)、4 級クラスの顔貝嬢さん(台湾)が満点を取りました。
- 12 月 15 日 職場体験学習 (1 面)
- 12 月 16 日 避難訓練
- 12 月 18 日 佐々木真フルトリサイタル (4 面)
- 12 月 22 日 オンライン大交流会 (4 面)
- 12 月 23 日～1 月 4 日 冬休み

## ♪ 後期の日本事情講座 ♪

- ①「なつみの台所」 12 月 3 日～1 月 21 日 山下先生
- ②「絵本作家になる！」12 月 1 日～2 月 2 日 郷野先生
- ③「和紙と遊ぼう！」1 月 14 日～2 月 18 日 竹川先生
- ④「ドラマの中へ」1 月 14 日～2 月 18 日 中馬先生

今年度前期、1 年ぶりに再開した日本事情のクラスが、後期もスタートしました！

前期大好評だった①～

③のクラスに加えて、新講座「ドラマの中へ」が始まります。授業の様子や学生の作品は、次号掲載予定です。お楽しみに！



↑前期の「絵本作家になる！」郷野先生と受講生たち。絵が苦手な人も、個性溢れる素敵な作品を完成させました。

## 大学生との交流

### ○11月20日 WIC オンラインイベント

早稲田大学の国際交流サークル WIC 主催のオンラインイベントに、JET から7名の学生が参加しました。

この7名は全員、オンライン受講生で、うち2名は2021年4月に入学し、ひらがなから勉強を始めた学生です。教室で学んだ日本語を実践する場がなかったため、日本語力に不安を感じていたようですが、今回のイベントを終えて、「緊張したけど、言いたいことが伝わった。少し自信が持てた」との感想を語ってくれました。

来日前の、制約の多い環境下でも、確固たる意志を持って学ぶ学生たち。掴んだチャンスに注ぐ熱量は人一倍大きいです。

### ○11月27日 NEIGHBOR イベント

神田外語大、日本大などの学生が所属する国際交流サークル NEIGHBOR と、JET の学生6名で、新宿御苑へ紅葉狩りに行きました。曇り空続きで心配していましたが、当日は好天に恵まれました。

参加したのはCクラス(上級)の学生たち。今年4月から日本での就職が内定している学生、12月のJLPTの受験を控えた学生など、それぞれの進路に向けて猛勉強を続ける彼らにとって、良いリフレッシュになったことでしょう。(郷野)



### ○文楽鑑賞教室

12月10日、学生8名と文楽鑑賞教室(国立劇場)へ行ってきました。演目は「新版歌祭文 野崎村の段」。マイクを使わず一人で何役も語り分ける太夫と、それに合わせた人形の動き、世界観を表現する三味線の音色に、劇中驚きの声を上げる学生も。ほとんどの学生が文楽を初めて観たとのことで、その感動はひとしおのようでした。(山下)

### ○佐々木真フルートリサイタル ～全20回シリーズ完結～

12月18日午後、佐々木真フルートリサイタル(ピアノは石井克典氏)に学生10名と出かけました。

佐々木ご夫妻は四半世紀以上にわたり毎年JETの学生をご招待くださっています。2002年に始まった銀座王子ホールでのシリーズは今回で20回となり、ひとまず完結ですが、円熟の演奏活動は今後も続きます。

佐々木様は、「留学生活のひとつまになれば」とおっしゃいましたが、学生たちの感動は大きなものでした。「聴き始めはサバンナで楽しそうに走る自由な感じ、その後変化が始まり、海岸の岩にうち寄せる波の美しい飛沫の映像が脳裏に浮かんだ(葉駿緯さん・台湾)、「日本で初めてクラシック音楽を聴いて本当に楽しかった。心の深いところに残る貴重な記憶になるでしょう。」(尤智威さん・台湾)

お天気もよく、リサイタルの後は、みんな人出が戻ってきたクリスマス近い銀座のぶらぶら散歩を楽しんだようです。(得猪)



## 友達100人できるかな?

### オンラインで「大交流会」!!

12月22日に、「オンライン大交流会」を行いました。

例年は「大忘年会」と称して、会場に地域の方々や大学生の皆さんをお招きし、JETの学生たちが腕によりをかけて作った母国の料理と一緒に食べて、ゲームを楽しむ…という本イベントですが、情勢を鑑み、昨年度に続いて今回も対面での実施は見送る判断をしました。

そこで開催した「オンライン大交流会」。ポスター作成者は許俊傑さん(香港)です。参加者は総勢100名!JETの学生・講師に加え、国際交流団体 NEIGHBOR、WIC、そして東京女子大、桜美林大、拓殖大、学習院大、の大学生17名をお招きし、交流を楽しみました。

各グループでは白熱したゲームが繰り広げられました。「JETクイズ」(「JETの創立は何年?」、「ジェッピーの生みの親は誰?」など)や「連想ゲーム」、「イントロクイズ」で戦い、勝利チームには、後援会からアマゾンのギフトコード(商品券)が贈られました。

ご参加くださった大学生の皆さまのご協力もあり、どのグループも明るい笑い声と弾ける笑顔で溢れていました。

一年の締めくくりにふさわしい、楽しい会となりました。(郷野)



↑皆の心を合わせろ!「連想ゲーム」。日本といえば?

## 桜川小学校との交流会

### 初めてのハイブリッド型で、2年ぶりの開催

11月30日、板橋区立桜川小学校の5年生約100名と、Cクラス(上級)の学生12名が、交流会を行いました。

昨年はコロナ禍で交流が叶わず、今回2年ぶりの開催となりました。また、Cクラスのうち2名はオンライン受講生のため、今回初めてZoomを用いたハイブリッド型で実施しました。

写真やスライドを使って国の名物や言葉を紹介し、

体育館では国のゲームなどをしました。学生たちは「子どもたちとどう話せばいいのか」と不安がっていましたが、クラスに入ると元気いっぱいの子供たちとに囲まれ、自然とやりとりが生まれました。

学生からは、「遠い外国なのに関心が高くびっくり!」、「あだ名で呼ばれて、懐かしくなった」、「給食がおいしかった。毎日食べられるなんて…」という感想が聞かれました。

お別れの際には再会を約束している学生も。学生たちは久しぶりの校外での活動を楽しんでいました。(山下)



↑小学生からの質問の嵐にびっくり!